

耳鼻咽喉科・頭頸部外科【Stage2】

1. 実習の基本方針（目的・到達目標）

耳鼻咽喉科・頭頸部外科はヒトの感覚器のうち聴覚・嗅覚・味覚・平衡覚を扱う。また、耳科領域、鼻科領域、咽喉頭領域、頭頸部領域に分類される豊富なサブスペシャリティを有する。手術では、人体で最も小さな骨である耳小骨を顕微鏡下に操作するような耳科手術を始めとし、繊細さとダイナミックさ両方を兼ね備えた頭頸部癌の手術、鼻腔や咽喉の奥深くを内視鏡で操作するような手術など多くの手技がある。外来では乳幼児から高齢者に至るまでの幅広い年代の患者を診察する。

Stage 1 では基礎的事項を中心に実習を行ったが、Stage 2 ではより実践的かつ自由度の高い実習を行うことでさらに耳鼻咽喉科全般の知識を深め、技能を習得する。

●一般目標

耳鼻咽喉科疾患の診断・治療を経験し、プライマリケアに対応できるよう知識・技能の習得に努める。

●到達目標

- (1) 耳鼻咽喉科学的診察及び治療に必要な基本的な各種鏡検ができる。
- (2) 聴力検査、神経耳科学的検査及びその他検査の原理、検査結果を説明できる。
- (3) 各種手術における解剖を説明できる。
- (4) 問診、診察、検査データから鑑別すべき疾患を羅列できる。
- (5) 代表的な疾患の治療方針、治療法を説明できる。
- (6) マナーに配慮して患者から情報を得ることができる。

2. 実習の方法（内容・行動指針）

指導医、上級医とともに診療に参加することで実習を行う。

- (1) 外来患者の問診・診察を指導教員の下で行い、その診断過程に参加する。
- (2) 衛生的手洗い、手術的手洗い、滅菌ガウンと手袋の装着を実践の上、入院患者の診察、手術や処置に参加する。
- (3) 手術症例を担当し、病歴、診察・検査・画像所見、診断及び治療方針について、カンファレンスにてプレゼンテーションを行う。その結果を実習最後の総括にて、担当教員の前で発表し、質問に答えるとともにレポートにまとめる。
- (4) 外来患者及び手術患者検討会に出席し、疾患や治療方針について学ぶ。
- (5) 希望者は市中病院での学外実習、市内小学校の耳鼻咽喉科健診の助手など、院外での活動にも取り組む。

3. 実習上の注意事項

- (1) 患者に不快感を与えないよう清潔な服装で実習にあたりと同時に、飛沫暴露から自分自身を守るためという意味でも正しく白衣やマスクを装着する意識を持つ。
- (2) 外来診療やカンファレンスの中で多くの患者の個人情報に触れることになるが、実習中に知り得た患者についての情報は決して他言しない。
- (3) 手術見学において学生同士の私語、雑談は慎む。

4. 「医学生の実習における医行為と水準」の例示

1) レベルⅠ：指導医の指導・監視の下で実施されるべき

耳鏡・鼻鏡・喉頭鏡による耳鼻科一般診察、問診、手術室における手洗い・ガウンテクニック・糸切り・縫合など、入院患者の処置（気管カニューレの交換、ガーゼ交換、抜糸）

2) レベルⅡ：指導医の実施の介助・見学が推奨される

喉頭ファイバー検査、嚥下機能検査（嚥下内視鏡検査、嚥下造影検査）、外来手術や処置、手術室における各種手術と術後管理

5. 実習スケジュール

	月	火	水	木	金
第1週 午前	オリエンテーション後 9:00～手術 or 9:00～外来	入院患者診察後 9:00～手術 or 10:00～外来	入院患者診察後 9:00～手術 or 9:00～外来	入院患者診察後 9:00～手術 or 10:00～外来	入院患者診察後 9:00～手術 or 9:00～外来
午後	指導医指示 (手術/病棟/外来 検査)	指導医指示 16:30～ 手術症例カンファレンス	症例プレゼン準備	指導医指示 16:30～ 入院症例カンファレンス ☆症例プレゼン	指導医指示 (手術/病棟/外来 検査)
第2週 午前	入院患者診察後 9:00～手術 or 9:00～外来	入院患者診察後 9:00～手術 or 10:00～外来	入院患者診察後 9:00～手術 or 9:00～外来	入院患者診察後 9:00～手術 or 10:00～外来	入院患者診察後 9:00～手術 or 9:00～外来
午後	指導医指示 (手術/病棟/外来 検査)	指導医指示 16:30～ 手術症例カンファレンス	症例発表/総括準備、レポート作成	15:00～ 総括：症例発表 16:30～ 入院症例カンファレンス	指導医指示 (手術/病棟/外来 検査)

※ 集合時間：毎朝8時10分、集合場所：5階新病棟 耳鼻咽喉科カンファレンス室
学外実習は2週間のうち1～2日ほどを予定している。